

ブルームバーグ インクルーシブな企業文化と環境づくりにおいて 日本を代表する2つのアワードを受賞

【東京ー2021年12月9日】ブルームバーグは、職場におけるLGBT+への取り組みの評価指標「PRIDE 指標 2021」において、2年連続ゴールドを受賞、また ACE アワード 環境づくり部門にて表彰されたことを発表しました。

「PRIDE 指標 2021」は、日本の企業および団体におけるLGBT+など性的マイノリティのダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体「work with Pride」が日本で初めて策定したものです。指標は Policy（行動宣言）、Representation（当事者コミュニティ）、Inspiration（啓発活動）、Development（人事制度、プログラム）、Engagement/Empowerment（社会貢献、渉外活動）の5つの観点に基づいて評価されます。ブルームバーグは上記5つの観点において各指標内で指定の要件を満たし満点を獲得しました。

ACE アワードは ACE の目指す「企業の成長に資する新たな障がい者雇用モデルの確立」の観点から、そのモデルとなる事例の募集、事例発掘を行い表彰するものです。ACE 会員企業各社からの推薦を受け、厳正な審査のもと選出されます。ブルームバーグは入社直後の障がい社員受け入れのためのガイドラインを慶應義塾大学にて障がいを研究する学生と協業し作成。企業の人事主導ではなく、現場で実業務に従事する社員と当事者の視点、安心して定着できる仕組みの導入などが評価されました。

ブルームバーグ アジア太平洋地域のダイバーシティおよびインクルージョンの責任者である Alisha Fernando は、次のように述べています。「私たちは、誰もが歓迎され、安全で、それぞれのバックグラウンドにかかわらず、存在や貢献が尊重されるような環境を作るために取り組んできました。私たちは、work with Pride と ACE によって認められたことを誇りに思っており、より公平なコミュニティと職場に向けて努力を続けることを約束します。」

ブルームバーグは、全社レベルでLGBT+を含み個々の違いを尊重し誰もが協働できるインクルーシブな企業文化を推進し、多角的かつ包括的に多様性の浸透に取り組んでいます。何よりもまず、社員がLGBT+の認知度と理解を深め、安全で自分らしく仕事ができる環境作りを目的として、LGBT & Ally Community、通称 BPROUD というコミュニティが社内外でさまざまな活動を行っています。また、人事的観点からもLGBT+への理解が浸透するように、全社員を対象とした研修や、新入社員に向けてD&Iにおける活動の説明会を行っています。

ブルームバーグは、障がい者雇用の問題を経営アジェンダで取り上げることが推進する国際イニ

Bloomberg

シアチブ「[Valuable 500](#)」にいち早く加盟した企業のひとつであり、職場におけるメンタルヘルスのあり方を考え直す英国のイニシアチブ「[Time to Change Employer Pledge](#)」の正式参加企業でもあります。[ブルームバーグ平等サミット](#)や[ビジネスソートリーダーを招いた対話セッション](#)なども開催し、ブルームバーグの活動を世界中の企業と積極的に共有しています。こうした取り組みが障がい者インクルージョンに向けた対話への参加を促し、現実の打開につながります。障がい者インクルージョンを実現できなければ、世界の人口の17%に相当する13億人の人々が取り残されてしまうのです。

ブルームバーグ会長であるピーター・T・グラウアーも、長きにわたり多様性の促進を提唱し、数々の賞を受賞しています。OUTstanding LGBT+ Ally Executive Role Model List の上位10位に3年連続で選出された後、今年は [INvolve Role Model Hall of Fame](#) に選ばれました。

またアジア太平洋地域リーガル部門統括であり、LGBT+ & Ally Community (BPROUD)のエグゼクティブ・スポンサーである Amin Kassam が2018年以來、選出されている Top 100 LGBT+ Executives List にて今年も上位2位に選出されています。Kassam は、LGBT+コミュニティの公民権の擁護に加え、世界中の婚姻の平等のイニシアチブに参加し、その活動を主導してきました。

ブルームバーグのダイバーシティとインクルージョンの取り組みは、[こちら](#)をご参照ください。